

H24-D1-1 深度49.20~49.91m 最新活動面の深度 (No.12) を変更

- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度について、薄片観察結果には深度「49.84m」と記載していたが、以下のことから最新活動面の深度を49.84mから49.82mに変更する。
- 当初のコア観察では、深度49.84mを主せん断面としていたが、やや波打っている。一方、コアの再観察において、深度49.82mのせん断面がより直線的であることから、深度49.82mを最新活動面に認定した。
- 従前提示していたデータの最新活動面の深度は、再観察で認定した深度「49.82m」をデータ集に反映し忘れていたため、薄片観察結果には深度「49.84m」と誤って記載してしまった。なお、性状一覧表には、従前提示したものの正しい位置に最新活動面を示す矢印が付いている。

最新活動面認定根拠 (H24-D1-1 深度49.20~49.91m)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度49.82mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



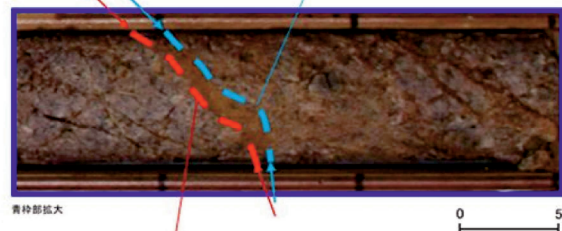
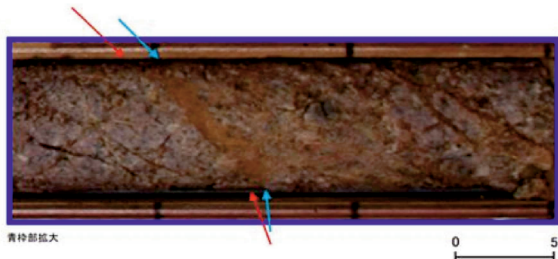
凡例

← → 破碎部範囲※
※: 写真上は白色で記載

↘ 最新活動面

※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

深度49.84mの面(水色矢印)はやや波打つ



深度49.82mの面(赤矢印)は、より明瞭で直線的である

凡例

↘ 最新活動面

↙ 従前の最新活動面

最新活動面※の記載
該当箇所のコア観察カード

・49.82~49.84m: Hc-1 (主せん断面・49.84m)
上端44°、下端43°、上端は直線的でセメントに連続、下端はやや波打ちをから連続
片に2mmの石英粒を含有する軟弱な粘土で、明瞭な色
E層に、厚さは10mm

面の直線性・連続性の記載

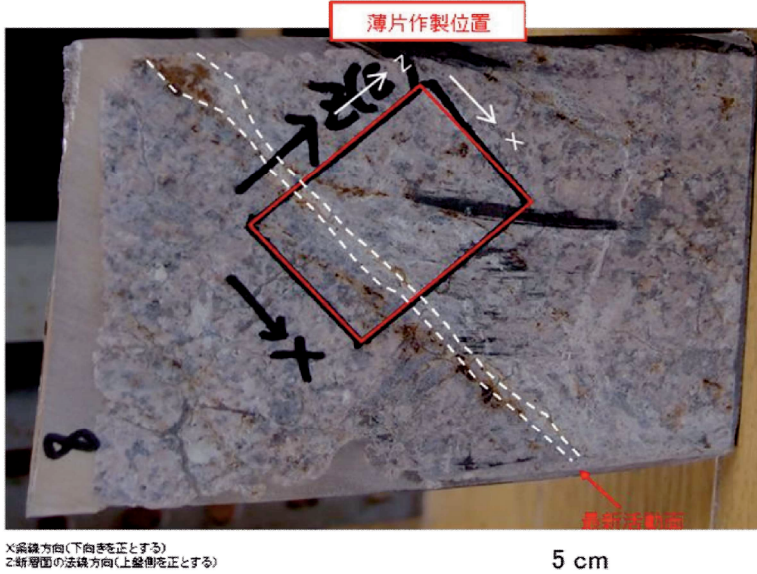
H24-D1-1 深度49.20~49.91m 最新活動面の深度 (No.12) の変更に伴い、最新活動面の深度を示す矢印の位置 (No.13) を変更

- 薄片観察結果の薄片試料全景写真上に最新活動面を示す矢印を記載しているが、最新活動面の深度の変更に伴い、細粒部の上端側である断層ガウジの左側に変更となる。

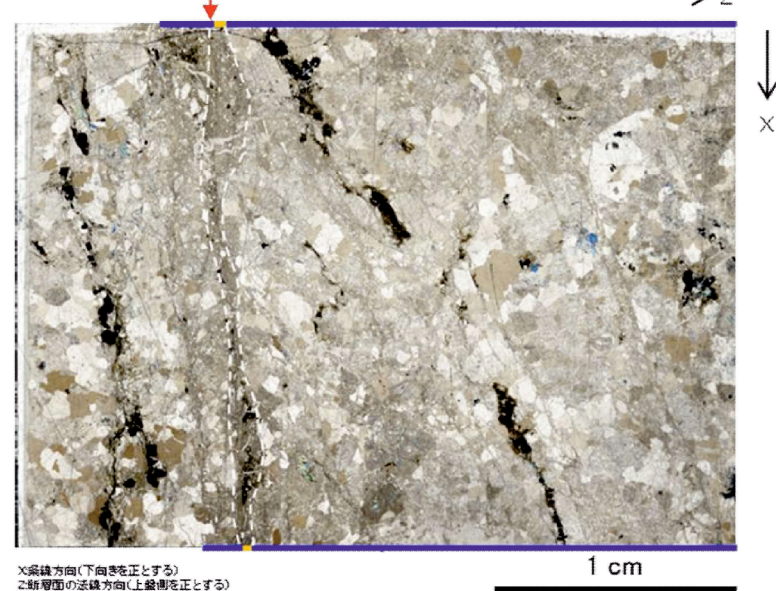
コア写真



薄片作製位置写真



薄片全景写真(単ニコル)



1. 変更内容, 理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面の深度を53.80mに変更 (No.15)

【理由】コアを再観察した結果, 深度53.80mが細粒部を伴い最も直線的であった

- ・走向・傾斜をN22E75Eに変更 (No.16)

【理由】最新活動面の深度 (No.15) の変更により, 基準方位が変わることに伴う変更

- ・断層ガウジの幅を1.0cmに変更 (No.17)

【理由】資料作成時に観察事実が正しく反映されていなかった

- ・薄片観察結果に掲載の写真の向きを修正 (No.18)

【理由】写真の向きを見誤っていた

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 最新活動面の深度を「53.80m」に変更 (No.15)
- b 走向・傾斜を「N22E75E」に変更 (No.16)
- c 見直し後の走向・傾斜に基づく図に変更 (No.16)
- d 断層ガウジの幅を「1.0cm」に変更 (No.17)
- e ブロックサンプル写真, 薄片試料写真の向きを上下左右反転 (No.18)

H24-D1-1 深度53.77~54.54m 最新活動面の深度 (No.15) を変更、それに伴い走向・傾斜 (No.16) を変更
 ブロックサンプル写真、薄片試料写真 (No.18) を上下左右反転

従前

見直し後

第833回審査会合

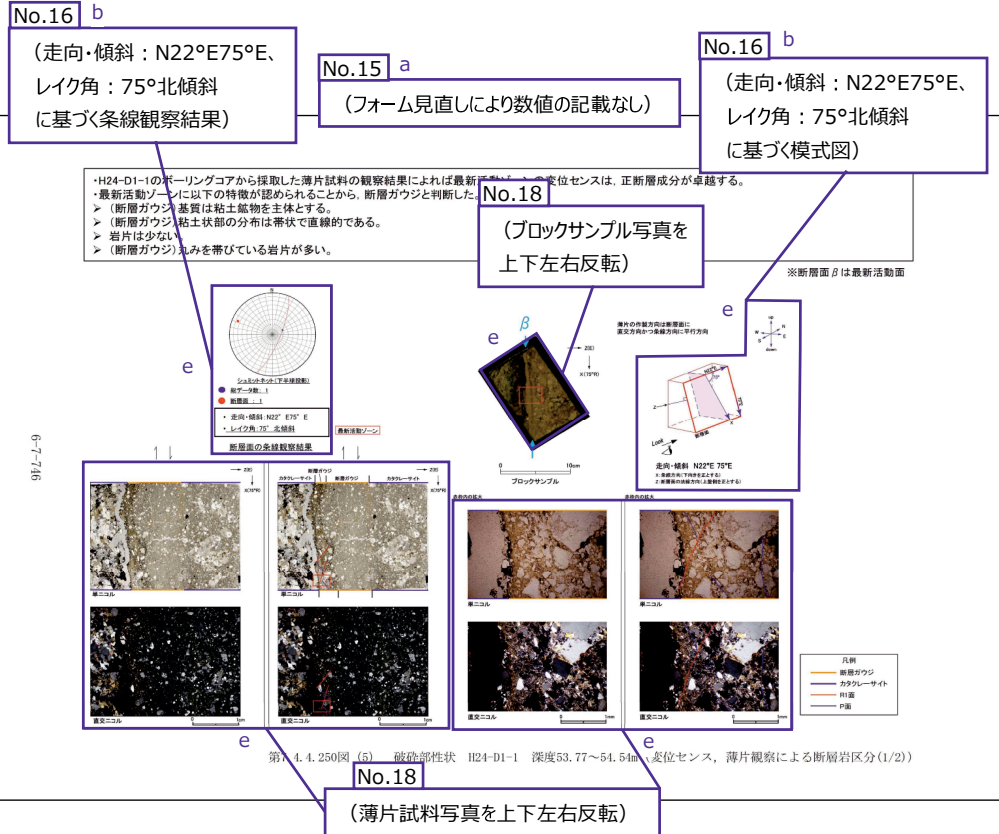
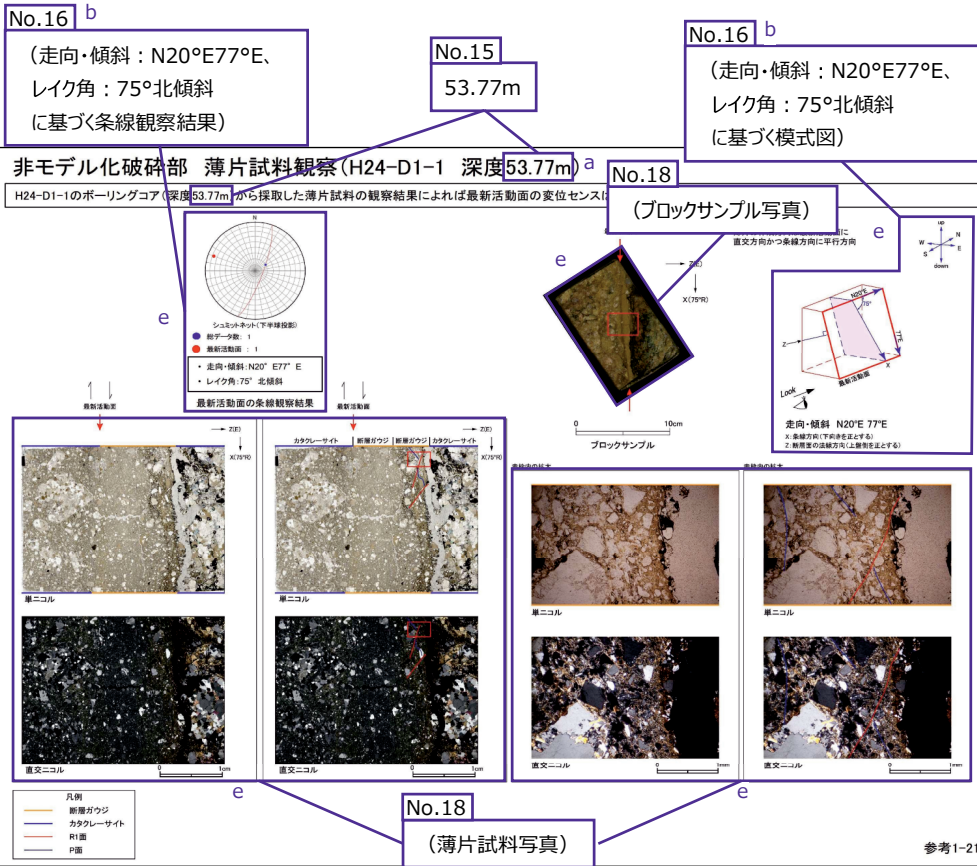
机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-215頁

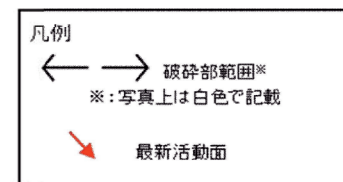
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)



H24-D1-1 深度53.77~54.54m 最新活動面の深度 (No.15) を変更

- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度について性状一覧表のコア写真上に赤矢印、薄片観察結果には深度「53.77m」と記載していたが、以下のことから最新活動面の深度を53.77mから53.80mに変更する。
- コアを再観察し、細粒部を伴い最も直線的であることから、深度53.80mが最新活動面であることを確認した。
- 従前提示していたデータでは、最新活動面の深度を「53.77m」としていたが、従前の作業プロセスでは今回の元となるデータに相当する記録を作成していなかったため、「53.77m」としていた根拠がトレースできなかった。

コア写真



深度53.80mの面 (赤矢印) は直線的で境界がより明瞭である

※コア観察カードの主せん断面はコア観察者の記載した最新活動面の深度(見立て)である

最新活動面※の記載

該当箇所のコア観察カード

53.77~54.54m: 650号
 53.77~53.80m: Hc-2 (主せん断面・53.77m)
 上端650号下端650号で両者地帯的連続性あり
 片1.3mmの石英粒と重なり、薄片は含まない 取弱な灰褐色粘土厚15mm

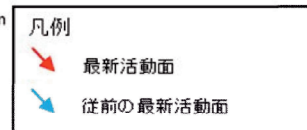
面の直線性・連続性の記載



青枠部拡大



深度53.77mの面 (水色矢印) は直線的であるが、境界が一部不明瞭 (緑色丸の範囲) になっている



H24-D1-1 深度53.77~54.54m 最新活動面の深度 (No.15) の変更に伴い、走向・傾斜 (No.16) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表にN20E77Eと記載していたが、BHTV展開画像からの走向・傾斜の読みに誤りがあったことから以下のとおり走向・傾斜をN20E77E (灰褐色細粒部の上端) からN22E75E (灰褐色細粒部の下端) に変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H24-D1-1 深度53.77~54.54m)

・ H24-D1-1 深度53.77~54.54mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN22° E75° Eである。

